

2025

これからの新しい
コミュニティをひらこう



東京都美術館 × 東京藝術大学
とびらプロジェクト

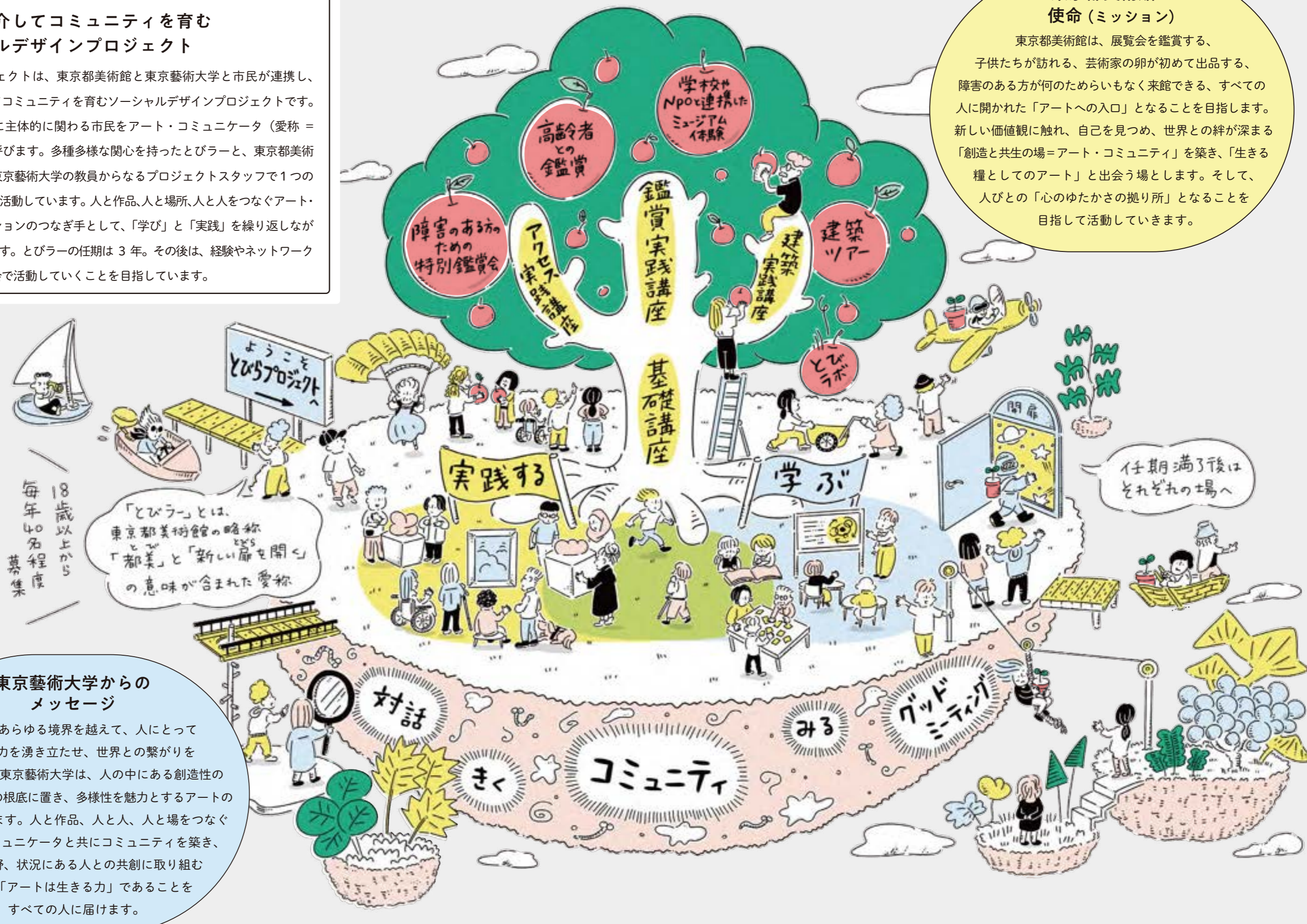
「とびらプロジェクト」とは？

アートを通してコミュニティを育む ソーシャルデザインプロジェクト

とびらプロジェクトは、東京都美術館と東京藝術大学と市民が連携し、アートを通してコミュニティを育むソーシャルデザインプロジェクトです。プロジェクトに主体的に関わる市民をアート・コミュニケーター（愛称＝とびラー）と呼びます。多種多様な関心を持ったとびラーと、東京都美術館の学芸員、東京藝術大学の教員からなるプロジェクトスタッフで1つのチームをつくり活動しています。人と作品、人と場所、人と人をつなぐアート・コミュニケーションのつなぎ手として、「学び」と「実践」を繰り返しながら活動しています。とびラーの任期は3年。その後は、経験やネットワークを活かして社会で活動していくことを目指しています。

東京都美術館の 使命（ミッション）

東京都美術館は、展覧会を鑑賞する、子供たちが訪れる、芸術家の卵が初めて出品する、障害のある方が何のためらいもなく来館できる、すべての人に開かれた「アートへの入口」となることを目指します。新しい価値観に触れ、自己を見つめ、世界との絆が深まる「創造と共生の場＝アート・コミュニティ」を築き、「生きる糧としてのアート」と出会う場とします。そして、人びとの「心のゆたかさの拠り所」となることを目指して活動していきます。

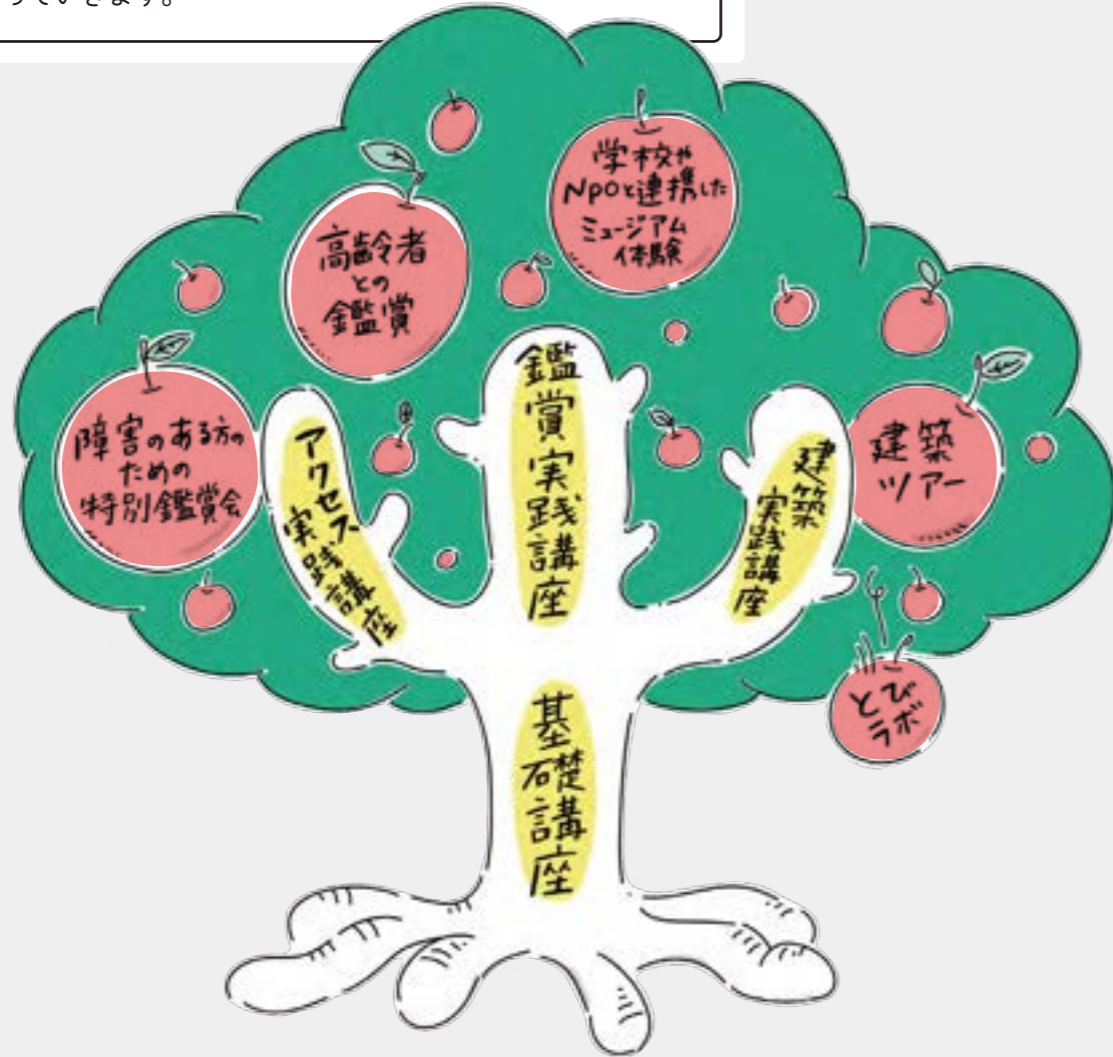


東京藝術大学からの メッセージ

アートはあらゆる境界を越えて、人にとって根源的な力を湧き立たせ、世界との繋がりを生み出します。東京藝術大学は、人の中にある創造性の探求を研究活動の根底に置き、多様性を魅力とするアートの役割を創造します。人と作品、人と人、人と場をつなぐアート・コミュニケーターと共にコミュニティを築き、様々な分野、状況にある人との共創に取り組むことで、「アートは生きる力」であることをすべての人に届けます。

とびラーの学びと実践

とびラーは「基礎講座」、「実践講座」、「とびラボ」を通して、東京都美術館のミッションと東京藝術大学からのメッセージを共有し、とびラーとしての役割の理解を深めていきます。学ぶことと現場で実践することのサイクルがあることで、美術館を拠点とした活動がさらに充実したものになっていきます。



学ぶ 基礎講座

新しいコミュニティづくりの基本を学ぶ講座です。1年目のとびラーは全員必ず参加します。美術館での活動とはどのようなものか？対話やクリエイティブなコミュニケーションが起こる場づくりとは？など、とびラーの活動を支える基礎的な物事考え方を参加形式で学んでいきます。



「きく力」を身につける



作品を鑑賞するとは



会議が変われば社会が変わる

基礎講座

学ぶ 鑑賞実践講座

複数の人で対話を通して作品を楽しみ、鑑賞を深める活動について学びます。自由な発想で、主体的に鑑賞できる機会をつくるにはどうしたらよいか、「鑑賞の場を作る側」の視点を持ちながら考えていきます。

鑑賞実践

スペシャル・マンデー 美術館休室日に、学校の授業と連動して子どもたちと学びあう

鑑賞実践

ずっとび鑑賞会 認知症が気になる方や、そのご家族と美術館を楽しむ

とびラーの 声



野上 玲子さん

対話を通して作品を見つめるうちに、最初は見えていなかったものが見えてくる驚きや楽しさが湧き上がってきます。作品や他者、また、自分自身への関心が高まることで、鑑賞の場をともにする人たちがそれぞれに豊かな時間を感じることができる場を作りたいです。



スペシャル・マンデー

鑑賞

学ぶ アクセス実践講座

美術館にある作品や文化財を活かし、多様な人々が芸術や文化財につながることでできる新たな回路をつくる活動と、その意義について考えます。

鑑賞実践

障害のある方のための特別鑑賞会 特別展の休室日を利用し、普段は来館しにくい方をとびラーがサポート

鑑賞実践

美術館でやさしい日本語プログラム 外国にルーツがある子どもと一緒に作品を鑑賞するプログラム

とびラーの 声



西山 美香さん

相手に関心を持って、知ろうとして、聞いて確認して、行動してみて、ちょっと違っていたら修正してまた行動・・・これって障害がある方々に対してだけでなく、人と交わる時は誰にでもそうで、このサイクルをずっと継続していくと他者との境界線が少しずつ緩やかになるのではと考えています。



障害のある方のための特別鑑賞会

アクセス

学ぶ 建築実践講座

前川國男が設計した東京都美術館の建築への関心を軸に、より広い視野で建築の魅力、建築と人々の関わりについて考え、建築空間があるからこそ生まれる活動を作っていきます。

鑑賞実践

とびラーによる建築ツアー 前川建築のみどころを、多彩なオリジナルツアーで紹介

鑑賞実践

あいうえのmeet (2025) めぐる、感じる、前川國男の2つの建築空間 東京都美術館×東京文化会館

とびラーの 声



佐藤 朗さん

建築を見る切り口は一つではなく、アートと同様に、見る人によって感じるものが異なります。そうした感じ方をお互いにシェアすることで、色々な人が建築を見ることを通してコミュニケーションするきっかけになると感じました。



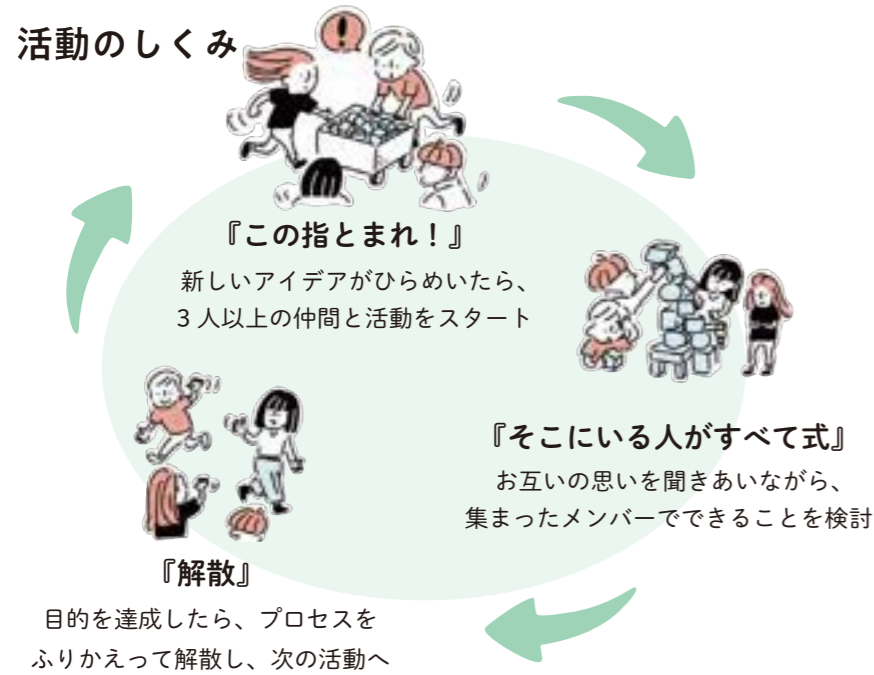
とびラーによる建築ツアー

建築

「とびラボ」とは？

とびラーが自発的に開催するミーティングで、新しいプロジェクトの検討と発信が行われる場です。様々なバックグラウンドや関心を持ったとびラーと運営チームが協働しオリジナルの活動が生まれます。

活動のしくみ



障害のある方にとって見えにくい作品を、iPadで拡大しながら鑑賞を深める取り組み



「大学生の『放課後ミュージアム』みる・つくる・はなす」

美術館にあまり馴染みのない大学生を対象とした、同世代のとびラーと鑑賞や交流を楽しむプログラム



触図(手で触って作品の構図などを理解するための補助ツール)を介して、視覚に障害のある方との鑑賞を探究&実践!

「美術館に来たことがない家族も、ウェルカム!」

「こどもとおとな、それぞれの視点を大切に」



「親子で楽しむまると野外彫刻」

野外彫刻を親子で鑑賞するプログラム。さまざまな作品に注目し、多世代の参加者で彫刻の魅力をあじわいました。



「とびたんけんたい! 美術館へのはじめの一步」

美術館の利用に不安を感じている小・中・高校生(知的障害・発達障害のある方など)とそのご家族を迎え、建物や彫刻の魅力をたくさん発見しました。

「きこえない・きこえにくい仲間と学ぶ・やってみる」



「わたしたちも手で話したい」

きこえない・きこえにくい・きこえる人の全員で、手話を学びあいながらコミュニケーションを深める活動です。

「建築のおもしろさを体験してみよう」



「都美のいいトコ建築鑑賞スタンプラリー」

前川建築のみどころを、とびラーと一緒に観察しながら、スタンプラリー形式でめぐるプログラム



「とびラーによるインタビュー」

展示会の来場者に、感想や体験について聞くインタビューを実施。収録音源はラジオ番組風に編集し、ウェブサイトで公開中!

さまざまな人がともに活動するために・・・

【とびラー専用掲示板】

専用WEBサイト・メーリングリストで情報共有

とびラーの掲示板では、日々とびラボやプログラムに関する情報が掲載され、全員がいつでも参加できるオンライン上のコミュニケーションの場が形成されています。メーリングリストと連動し、多様な活動を全員で共有します。



【アートスタディールーム】

東京都美術館にあるとびラーの活動拠点

アートスタディールームは、とびラボのミーティングの場としてとびラーが利用できる空間です。講座やプログラム等の会場にもなります。



これからゼミ

任期満了後の活動を検討するしくみです。3年間の活動で生まれた関心を今後も展開していくために、方法やチームづくりを検討していきます。

3つのプロジェクトが連動し、 とびラーの実践の場が広がっています

さまざまな分野*の人々が領域をこえて連携し、
社会課題に取り組んでいます。

※文化施設、NPO、行政、大学、医療・福祉機関など

「とびらプロジェクト」が育むコミュニティを基盤に、2013年には上野の9つの文化施設が連携してこどもたちのミュージアムデビューを応援する「Museum Start あいうえの」が始まりました。こどもたちを支援するNPO等と連携してプログラムを実施しています。2021年には、高齢者を対象とした「Creative Ageing ずっとび」を立ち上げ、台東区の医療・福祉機関とも連携を始めました。こうした取り組みを通じて、世代や領域を超えた共創の場が広がり、アートを紹介したコミュニティが社会課題に向き合う力となりつつあります。



東京都美術館 × 東京藝術大学
とびらプロジェクト

とびらプロジェクトは、東京都美術館と東京藝術大学と市民が連携し、アートを介してコミュニティを育むソーシャルデザインプロジェクトです。アート・コミュニケータは18歳以上の多世代で活動しています。

とびラーは「Museum Start あいうえの」や「Creative Ageing ずっとび」などすべてのプログラムにアート・コミュニケータとして伴走します。



museum start

あいうえの

since 2013

主催：
東京都、公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都美術館、東京藝術大学

上野公園の9つの文化施設*が連携し、すべてのこどものミュージアムデビューを応援する「ラーニング・デザイン・プロジェクト」。こどもと大人が文化やアートに出会い、楽しみ、ともに学びあう環境を創造しています。

※上野の森美術館、恩賜上野動物園、国立科学博物館、国立国会図書館国際子ども図書館、国立西洋美術館、東京国立博物館、東京都美術館、東京藝術大学、東京文化会館（五十音順）

Creative Ageing **ずっとび**

パートナーシッププロジェクト：
「共生社会」をつくるアートコミュニケーション共創拠点

老いや年齢に関わらず様々な年代の人々が創造的に作品と出会える機会を作るプロジェクト。超高齢社会に対応し「歳を重ねることをポジティブに捉え、だれもが一人の人として尊重される社会を目指し、医療福祉機関とも連携し取り組んでいます。

任期満了後の活動

3年の任期を満了したとびらたちはそれぞれのコミュニティに戻ります。とびらプロジェクトでの3年間に会った人々とのネットワークや、活動や講座で習得したスキルを活かしながら様々な形で「対話」を大切にしながら活動を続けています。美術館を拠点に育まれた沢山の小さな種が、広く社会の中で芽を出し、多様な人々、価値観を結び続けます。



あーちゅびー

撮影：小林正彦



東京都多摩地域を拠点として「対話を通じたアート鑑賞」などのイベントを企画・運営しています。美術館、小学校、自治体などと連携しながら多様な世代をアートに繋ぐ活動を展開しています。

前川國男を知ろう！彩の国探検隊



東京都美術館と同じく前川國男が設計した埼玉会館を舞台に、建築ツアーを行うチームです。会館スタッフと協働しながら、アート・コミュニケーターの視点と熱意が伝わるツアーを定期的開催しています。

Flatart (フラタート)



孤立しがちな若者に向け、アートを介して対話や創作の場をつくっています。同時代のアーティストともつながり、支援する／されるという関係を超えて、若者が新しい自分を発見し社会へ踏み出す力を育みます。

あーとえきっぷ



街中のギャラリーや野外アートをおしゃべりしながら楽しむ活動を通して、街のにぎわいへとつながる場を生み出しています。2025年には千葉県松戸市の芸術祭でも「おしゃべり鑑賞会」を実施しました。

A&C ちよだ



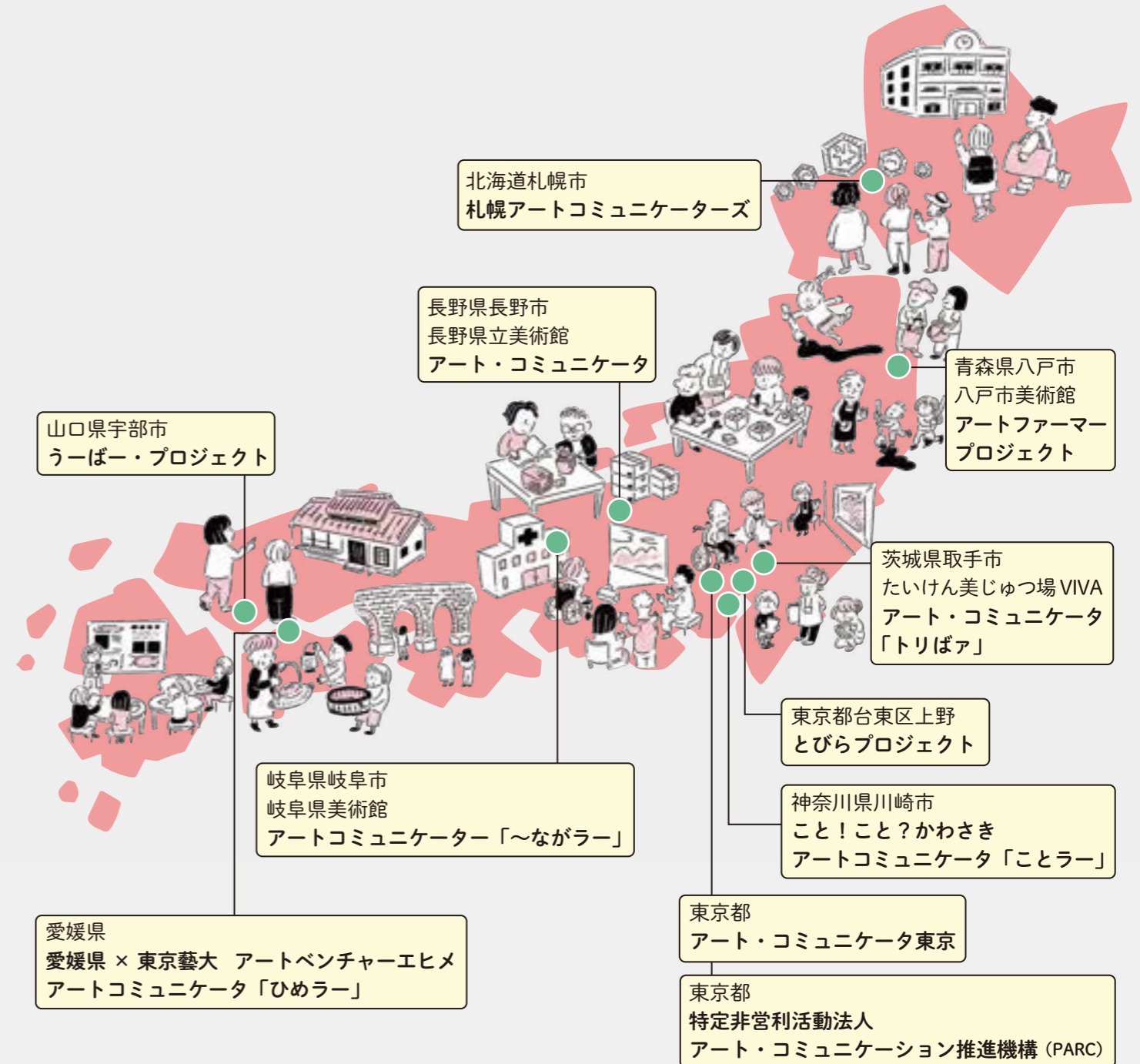
「やさしい日本語」を使ったアート鑑賞やゲームで、多様な文化的背景をもつ人々が交流する場をつくっています。千代田区の後援を受け、区内の福祉施設で定期的にイベントを実施しています。

bridge



任期満了したとびらのほか、地元でガイド活動をしていたメンバー等が集まり、「モノとヒトに橋を架ける」をモットーに建築ツアーを行っています。前川國男設計の神奈川県立音楽堂で2019年から定期的にツアーを実施しています。

アートを介してコミュニティを育む アイデアが全国的に広がっています



アートコミュニティリーグ (ACL)

「アートを介してコミュニティを育む」という、とびらプロジェクトの取り組みをヒントにした活動が日本各地で広がっています。各地のアート・コミュニケーターは、美術館、行政機関、大学などと共創し、その土地ならではの文化や人のつながりを大切にしながら、アートを介して「人と人」「人と作品」「人と場所」のあたらしい関わりの回路を生み出しています。

アートコミュニティリーグ (ACL) は、こうした各地の活動を支える運営チームが集まり、情報交換や知見の共有を行うためのネットワークです。多様な経験や学びを持ち寄り、共有することで、全国に広がるアートを介したコミュニティづくりを支え合います。

アートコミュニティリーグ (ACL) について詳しい情報はこちら



任期満了したアート・コミュニケータの声



山田 理恵子さん

とびらプロジェクトでは、とびラーが講座で学び、美術館で実践する循環があります。その過程で、アート・コミュニケータの在り方やさまざまな問いが生まれることも多いですが、小さなことにも耳を傾け、向き合い続けてくれる仲間の存在が、失敗を恐れず次のチャレンジへと向かう原動力となりました。



小野 関亮吉さん

関心を寄せてくれる人がいて、誰とでもフラットに関われる。そういう場所では、自分の中から湧き出るものがありました。受け止めてもらえる安心感があるから、素直な気持ちや問いを発見し、言葉にすることができます。アートはそれを導いてくれる存在であることを知り、鑑賞の楽しみが広がりました。



岡田 正宇さん

大勢のとびラーの中でどぎまぎする私でしたが、愛称で呼びかけられ、寄り添ってくれる誰かと出会ってポジティブになった気がします。誰かと一緒にアートを楽しむ面白さ、相手の言葉を丁寧に「きく」ことで理解が深まり寄り添う気持ちになれる、そんな学びは私の気持ちを大きくしてくれました。



伊藤 万里子さん

たくさん子どもたちと出会えるのは、とびラーならではの。本物の作品をみる眼差しや言葉にじんときます。この感動を味わいたくて、ファシリテータを目指し講座で学びました。3年間で前進できたのは、仲間の存在と小さな体験を積み重ねていったからこそ。美術館には新しい変化を楽しめるパワーがあります。

関連書籍



「美術館と大学と市民がつくるソーシャルデザインプロジェクト」

青幻社 2018年
とびらプロジェクト 編
1,760円



「子どもと大人のためのミュージアム思考」

左右社 2022年
稲庭彩和子 編著、他
1,980円



とびらプロジェクト

<https://tobira-project.info/>



Museum Start あいうえの

<https://museum-start.jp/>



Creative Ageing ずっとび

<https://www.zuttobi.com/>



オープン・レクチャー

不定期開催・1年に1～2回

記録映像公開中!

とびらプロジェクトの活動から生まれたテーマについて、参加者のみなさんと一緒に考えます。

「とびらプロジェクト」フォーラム

毎年1～2月に開催

記録映像公開中!

社会のなかでの美術館の役割や、アート・コミュニケータの働き、これからのコミュニティについて発信しています。とびラーによる活動紹介もあります。

お問合せ先

東京都美術館 アート・コミュニケーション係

〒110-0007 東京都台東区上野公園 8-36

Tel : 03-3823-6921 (代) メール : q-tobira@tobira-project.info

